

令和2年度 第1回 函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和2年10月13日（火）14時00分～16時00分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	<p>(1) 協議事項</p> <p>① 副会長の選任について</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>① 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録に向けての取り組みについて</p> <p>② 縄文文化普及啓発にかかる取り組みについて</p> <p>③ 函館市景観計画改定について</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>① 「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」の策定について</p> <p>(4) その他</p>
出席委員	<p>熊谷 儀一 会長 黒川 宣之 副会長</p> <p>竹内 正幸 委員 田名部忠勝 委員 大宮トシ子 委員</p> <p>酒井 康次 委員 松浦 宏 委員 笠島 美教 委員</p> <p>藤井 浩之 委員 加藤 詔三 委員 佐々木孝比古委員</p> <p style="text-align: right;">(計 11名)</p>
事務局	<p>教育委員会</p> <p>生涯学習部次長 池田 敏春</p> <p>文化財課長 長谷山裕一 文化財課主査 福田 裕二</p> <p>文化財課主査 田中 光也 文化財課主任主事 大矢 京右</p> <p>南茅部支所</p> <p>地域振興課長 村田 剛</p> <p>産業建設課長 西村 雅人</p> <p>都市建設部</p> <p>まちづくり景観課主査 松橋 亨</p> <p>観光部</p> <p>観光企画課長 小林 祐樹</p> <p style="text-align: right;">(計 9名)</p>

1 開 会

開会 (事務局)	開会
-------------	----

2 挨 拶

開催挨拶 (生涯学習部次長)	開催挨拶
-------------------	------

3 出席者紹介

出席者紹介 (事務局)	協議会委員および事務局紹介
----------------	---------------

4 議 事

(1) 協議事項

① 副会長の選任について

副会長の選任 (事務局) (熊谷会長)	会長からの指名を求める 副会長に黒川委員（一般財団法人道南歴史文化振興財団事務局長・縄文文化交流センター館長）を指名
副会長挨拶 (黒川副会長)	副会長就任挨拶

(2) 報告事項

① 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録に向けての取り組みについて

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録に向けての取り組み (熊谷会長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料1) 『北海道・北東北の縄文遺跡群』世界文化遺産登録までのスケジュール 「令和2年度 イコモス現地調査等対応記録」(投影資料) 説明
質疑応答 (加藤委員) (長谷山課長)	イコモス現地調査ではどのようなやり取りがあったのか。 リモートによる視察であり、地元自治体の職員も同行できない状況であった。内容についての詳細は口外できないが、①景観に関すること、②地域の盛り上がりについて、③保全の仕方はどうか、などについて質問があった。
(加藤委員) (長谷山課長)	回答したのは誰か。 地元自治体も北海道の職員も同行していないため、推進本部(青森県)の職員が回答した。 現地視察終了後のミーティングでは、函館市教委職員も画面を通して回答した。
(加藤委員)	市教委や道の阿部千春さんが回答すると思っていた。 推進本部職員がどこまで詳細に回答できたのだろうか。 報道等では好印象であったように聞いている。
(熊谷会長)	地元教委から回答できなかったことは残念であった。 今後は地域としてどうあるべきか協議し、1年間注力していきたい。

② 縄文文化普及啓発にかかる取り組みについて

<p>縄文文化普及啓発にかかる取り組みについて (熊谷会長) (事務局)</p>	<p>事務局に説明を指示 (資料2) 「令和2年度 縄文文化普及啓発および世界遺産登録推進にかかる主な取り組み(上半期抜粋)」 「令和2年度 普及啓発活動記録」 「民間団体等の活動との連携に関する新聞記事等」(投影資料) 説明</p>
<p>質疑応答 (熊谷会長)</p>	<p>盛り上げる意味で、一部でなく大勢で取り組んだ方が効果もある。官民の連携は今後も深めていくことになるだろう。</p>

③ 函館市景観計画改定について

<p>函館市景観計画改定 (熊谷会長) (事務局)</p>	<p>事務局に説明を指示 (資料3) 「縄文遺跡群世界遺産登録に向けた都市景観形成地域の指定等について」 「縄文遺跡群都市景観形成地域」(投影資料) 説明</p>
<p>質疑応答 (佐々木委員) (長谷山課長) (佐々木委員) (長谷山課長) (加藤委員) (熊谷会長) (長谷山課長)</p>	<p>届出基準が高さ10m、面積10㎡であり、面積基準が小さすぎる。これまでの住民説明会等では、広さの基準はなかったと思う。あくまでも届出基準であり、建築物を建てられないということではない。</p> <p>条例化することで、申請方法等も複雑化するのではないか。漁業者が事業関連の補助申請などとの兼ね合いの中で、建築期限に間に合わないことなどが無いよう、協議日数等についても柔軟な対応を検討して欲しい。</p> <p>景観条例の中の生活に関わる部分に支障を与えるものであればご理解いただけないと思うので、都市建設部とも協議していきたい。明日の住民説明会でもお話する。</p> <p>文化財保護法、景観保全、両面において制約があると思う。両方の整合を取りながら進めて欲しい。</p> <p>個人的には、制約するものでないのであれば、条例制定ではなく規制でいいのではないかと思う。</p> <p>縄文文化交流センター向かい側の伐採などにより、関連して伐採を進める所有者がいないとも限らない。丁寧な説明により、トラブル回避も必要となってくると思われる。</p> <p>条例改正や計画策定、その他様々な方法について検討してきた。最終的には、世界遺産登録のために必要であるため条例改正を行うこととした。</p>

(3) 協議事項

① 「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」の策定について

<p>「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」の策定について (熊谷会長) (事務局)</p>	<p>事務局に説明を指示 (資料4) 「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方(案)」 説明</p>
<p>質疑応答 (熊谷会長) (竹内委員)</p> <p>(熊谷会長)</p> <p>(黒川館長)</p> <p>(熊谷会長)</p> <p>(長谷山課長)</p> <p>(熊谷会長)</p>	<p>観光面や経済的な面から見て、竹内委員から意見等はないか。 道南縄文文化推進協議会としても世界遺産登録に向け取り組んできた。市に対する提言となるが、ガイド養成については、なかなか進捗しないのは予算の裏付けがないから。遺跡ガイドは、伝達が難しいニュアンスなども考えられ一定のレベルが求められる。市が予算化して養成に努めてほしい。今後、ガイドと観光客を繋げる仕組みを考えていく意味でも予算化が必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策などもあるが、縄文文化交流センターの入館状況はどうか。 例年2万人の入館者があり、今年度は4月から9月上旬に3/4が集中。コロナウイルスの影響により、4/18～5/25までは休館、5/26からは入館制限して開館した。当初は45人制限からスタートし、10/3からは120人に拡大した。7月からは回復の兆しとなり、市立小学校の教育学習、修学旅行により、7月は50件以上の予約だった。週末限定だが、観光部貸切バス利用促進補助金により、入館者数が9月は前年同月の2倍、上期の合計としては△26%にとどまった。 郷土学習事業などでも、子ども達が事前に学習して来館し、スタッフへも質問するなど、縄文文化に興味を持ってきている。来年以降も継続して欲しい。 また、道外からも問合せが増加している。 公共機関(函館バス)利用者への案内対応が課題である。 マイカー駐車場、多言語化、ガイド対策についてアドバイス欲しい。</p> <p>来訪者の増に向けた駐車場の確保など、教育委員会の考え方はどうか。さきに、ガイドの養成について回答願う。 他都市同様、ガイドの質がリピーターに影響を与える。 ボランティア、または有償もあるが、市教委としてはスタッフとして雇用し養成してガイドすることが必要と考えている。 無償でボランティアガイドする人はいないだろう。スタッフとして報酬を支払い、働いて行ける予算化をお願いしたい。 現状の駐車場と臨時駐車場について回答願う。</p>

(長谷山課長)	<p>縄文センター駐車場は普通車35台、大型5台のスペースしかなく、不足が明らかである。近隣地に臨時駐車場を設ける事が重要と考える。予算要求予定であるが、民地、公有地、例えばスポーツセンター等も活用し、シャトルバスも運行し利便性を図りながら、地域住民に渋滞などで迷惑をかけない方法について協議をはじめたところである。</p>
(熊谷会長)	<p>これまで借用できた民地が借りられなくなった状況の中、スポーツセンターを借り、シャトルバスで運ぶ方法もある。小学校廃校後の用地活用もある。民地購入は難しいかも。小学校なら整備は少額予算ですむのでは。世界遺産登録までには整備して来場者に満足していただけるよう取り組んで欲しい。</p>
(加藤委員)	<p>来場者推計を見ると、道の駅は狭すぎるのでは。拡張整備は難しいと思うがこのままの大きさが良いのか。</p>
(田名部委員)	<p>緩衝地帯については、尾札部道路の開通（大船）、臨港道路の開通（白尻）について、それぞれの完成後を考えながら計画して欲しい。</p> <p>商工会関係の方で、周辺に売店計画している人もいる。世界遺産に合わせて、国や道に要望するなど念頭に置きながら進めてほしい。</p>
(熊谷会長) (笠島委員)	<p>学校側から要望はありますか</p> <p>小・中学校でもそれぞれ縄文学習を進めており、子どもを通し地域と縄文に関わっている。</p> <p>縄文が注目されている反面、参加者の多数は地元の方ではない。</p> <p>ガイドの養成についても、地元の方の登用や地域雇用に繋げ、子ども達が地域に誇りを持てるよう学校も取り組んでいきたい。</p>
(大宮委員)	<p>縄文文化交流センター入館者は地元の方が少ない。</p> <p>縄文への関心や世界遺産になることのすごさを知って欲しい。</p> <p>垣ノ島のガイドにも発掘経験者が数人いることで喜んでもらえる。</p> <p>興味のない人にも入館料が高いと感じさせない工夫が必要。</p> <p>縄文文化交流センターもコロナ禍で規制中だが、緩和により体験メニューを増やせるか不安ではある。</p> <p>垣ノ島遺跡について、公開後の内容をお知らせできないか。</p>
(熊谷会長)	<p>縄文関連施設は、気軽に立ち寄れる施設にしていきたい。</p> <p>商工会議所からお願いします。</p>
(酒井委員)	<p>道南縄文文化推進協議会の活動もやってきたが、渡島総合振興局も道として同様の事業を行っている。道路アクセスについても同様で、行政の壁のような縦割りを解消して取り組み、問題解決できるはず。経済界は各行政地域の団体がひとつになって各種事業を行っている。世界遺産登録を控え、道路の問題が大きな課題である。道や市が協力して進めて欲しい。</p>
(熊谷会長)	<p>予算的に厳しい面もあるが、来訪者に満足してもらえるような施設づくりや地域づくりに協力願いたい。</p>

(4) その他

その他 (事務局)	<p>あり方(案)は、教育委員会に報告し意見聴取後、今月中には成案化の予定である。</p> <p>次回の協議会は、来年2月頃の開催を予定している。 史跡垣ノ島遺跡の公開についてお知らせ可能である。また、イコモス調査後の情報、道路に関する情報など含め意見交換したい。</p>
--------------	--

5 閉会

閉会 (事務局)	閉会
-------------	----